

# 第3四半期報告書

本書は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した第3四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

株式会社両毛システムズ

(E04855)

# 目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【事業等のリスク】	5
3 【経営上の重要な契約等】	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【設備の状況】	7
第4 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
(1) 【株式の総数等】	8
【株式の総数】	8
【発行済株式】	8
(2) 【新株予約権等の状況】	8
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	8
(4) 【ライツプランの内容】	8
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	8
(6) 【大株主の状況】	8
(7) 【議決権の状況】	9
【発行済株式】	9
【自己株式等】	9
2 【株価の推移】	10
【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】	10
3 【役員の状況】	10
第5 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
(1) 【四半期連結貸借対照表】	12
(2) 【四半期連結損益計算書】	13
【第3四半期連結累計期間】	13
【第3四半期連結会計期間】	14

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	15
【継続企業の前提に関する事項】	17
【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】	17
【表示方法の変更】	17
【簡便な会計処理】	18
【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】	18
【注記事項】	18
【事業の種類別セグメント情報】	20
【所在地別セグメント情報】	20
【海外売上高】	20
【セグメント情報】	20
2 【その他】	23
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	24
レビュー報告書	巻末

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年2月9日
【四半期会計期間】	第42期第3四半期（自平成22年10月1日至平成22年12月31日）
【会社名】	株式会社両毛システムズ
【英訳名】	RYOMO SYSTEMS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田代一郎
【本店の所在の場所】	群馬県桐生市広沢町三丁目4025番地
【電話番号】	0277(53)3131(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 松島寛
【最寄りの連絡場所】	群馬県桐生市広沢町三丁目4025番地
【電話番号】	0277(53)3131(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 松島寛
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第3四半期連結 累計期間	第42期 第3四半期連結 累計期間	第41期 第3四半期連結 会計期間	第42期 第3四半期連結 会計期間	第41期
会計期間	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 4月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成22年 10月1日 至 平成22年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日
売上高 (千円)	6,408,713	6,476,359	1,938,749	1,825,236	10,145,565
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	80,903	124,716	31,144	118,404	324,839
四半期(当期)純利益又 は四半期純損失( ) (千円)	88,826	86,269	27,079	64,525	220,495
純資産額 (千円)			7,481,140	7,456,261	7,625,229
総資産額 (千円)			9,704,796	9,819,218	10,385,816
1株当たり純資産額 (円)			2,124.94	2,117.16	2,165.17
1株当たり四半期(当 期)純利益金額又は四半 期純損失金額( ) (円)	25.39	24.66	7.74	18.44	63.02
潜在株式調整後1株当 たり四半期(当期)純利益 金額 (円)					
自己資本比率 (%)			76.6	75.4	72.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	822,804	425,398			1,474,282
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,530,851	824,560			1,707,786
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	75,111	46,935			44,888
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)			1,459,248	610,766	1,813,790
従業員数 (人)			780	842	802

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社における状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	842
---------	-----

（注）従業員数は就業人員（当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者及び常用パートを含んでおります。）であります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数（人）	644
---------	-----

（注）従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者及び常用パートを含んでおります。）であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
公共事業	1,253,206	-
民間事業	957,249	-
計	2,210,456	-

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注状況

当第3四半期連結会計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
公共事業	1,180,444	-	1,195,805	-
民間事業	1,015,970	-	979,202	-
計	2,196,415	-	2,175,008	-

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
公共事業	917,397	-
民間事業	907,838	-
計	1,825,236	-

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

- 2 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の、主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

なお、前第3四半期連結会計期間は、総販売実績に対する割合が100分の10以上の相手先がないため、記載を省略しております。

相手先	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)ミツバ	-	-	195,395	10.7

## 2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、アジア諸国を中心とする海外経済の改善や政府の国内景気対策などを背景に、緩やかな景気回復基調で推移しておりますが、改善の動きに一服感が見られました。急速な円高進行も加わり、国内雇用・所得環境は依然として厳しい状況が続いております。

こうした中、当社の事業におきましては、水道ビジネスが業務請負などの売上が堅調に推移いたしましたが、主力のガスビジネスで、新規の大口受注が第4四半期にずれ込んだ影響により、一部経費の発生に期ズレが生じました。

さらに、全社的に経費削減策を推進する一方で、公共ビジネス、ガスビジネス等において、全国的な販売促進、営業活動を展開するなど、将来に向けた積極的な事業拡大を図った結果、連結ベースでの売上高は1,825,236千円（前年同期比 5.9%減）、営業利益は 127,608千円（前年同期は 62,178千円）、経常利益は 118,404千円（前年同期は 31,144千円）、当四半期純利益は 64,525千円（前年同期は 27,079千円）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりです。

#### （公共事業セグメント）

公共事業セグメントでは、公共ビジネスを最重点分野と位置づけて今後の事業拡大に向け、地元自治体と共同で超次世代電子行政システム（商品名 G . B e \_ U ）の開発、全国的なシェア拡大、複数自治体への導入体制の強化に積極的に取り組みました。

この結果、売上高は916,447千円となり、セグメント利益は71,864千円となりました。

#### （民間事業セグメント）

ガスビジネスでは、前年度より進めていたエンジニアリングプロセスの改善提案や人材の育成の成果により、準大手企業向け、LPガス卸売企業などの新規顧客の獲得が順調に進んでおります。

組込みビジネスは、新規事業の大手自動車メーカー向けに制御設計分野のモデルベース開発コンサルティング事業が軌道に乗り、堅調に推移しております。

この結果、売上高は908,788千円となり、セグメント利益は32,318千円となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### （流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は4,326,531千円となり、前連結会計年度末に比べ1,161,247千円の減少となりました。これは主に、買掛金、未払金等の支払による仕入債務の圧縮や未払法人税等の支払及び無形固定資産の開発投資の増加等によるものであります。

#### （固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は5,492,686千円となり、前連結会計年度末に比べ594,649千円の増加となりました。これは主に、超次世代電子行政システム(商品名 G . B e \_ U ) への開発投資によりソフトウェア仮勘定が増加した事等によるものであります。

#### （流動負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は1,523,769千円となり、前連結会計年度末に比べ541,296千円の減少となりました。これは主に、買掛金及び未払法人税等が減少した事等によるものであります。

#### （固定負債）

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は839,186千円となり、前連結会計年度末に比べ143,665千円の増加となりました。これは主に、リース債務が増加した事等によるものであります。

#### （純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は7,456,261千円となり、前連結会計年度末に比べ168,967千円の減少となりました。これは主に、四半期純利益が 86,269千円となったこと及び配当金の支払により利益剰余金が減少した事等によるものであります。



(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,203,024千円減少し610,766千円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が118,531千円となったものの、売上債権の回収等により204,963千円（前年同期比+24,358千円）の収入となりましたが、第2四半期連結累計期間では630,361千円の支出だったため、当第3四半期連結累計期間では425,398千円の支出（前年同期は822,804千円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、超次世代電子行政システム（商品名 G . B e \_ \_ U ）への開発投資による無形固定資産の増加により147,439千円（前年同期比172,286千円）の支出となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間では824,560千円（前年同期比706,290千円）の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金により200,000千円（前年同期と同額）の収入となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間では46,935千円（前年同期比28,176千円）の収入となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は19,803千円であります。

### 第3【設備の状況】

#### (1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### (2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

##### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年2月9日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	3,510,000	3,510,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	3,510,000	3,510,000		

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成22年12月31日		3,510,000		1,966,900		2,453,650

#### (6)【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がないため、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成22年9月30日の株主名簿により記載しております。

## 【発行済株式】

平成22年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,497,500	34,975	
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	3,510,000		
総株主の議決権		34,975	

## 【自己株式等】

平成22年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社両毛システムズ	群馬県桐生市広沢町三丁目 4025番地	11,000		11,000	0.31
計		11,000		11,000	0.31

## 2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	698	581	481	475	470	487	457	449	455
最低(円)	525	460	428	440	443	450	435	428	435

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQにおけるものであります。

## 3【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新宿監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	789,816	1,172,698
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 911,293	1,807,879
有価証券	266,604	400,612
たな卸資産	<sup>2</sup> 840,110	<sup>2</sup> 397,326
その他	1,519,046	1,709,877
貸倒引当金	339	615
流動資産合計	4,326,531	5,487,778
固定資産		
有形固定資産	<sup>3</sup> 912,510	<sup>3</sup> 879,557
無形固定資産		
ソフトウェア仮勘定	2,545,809	1,550,901
その他	279,165	296,204
無形固定資産合計	2,824,975	1,847,105
投資その他の資産	1,755,200	2,171,374
固定資産合計	5,492,686	4,898,037
資産合計	9,819,218	10,385,816
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	411,214	626,995
短期借入金	200,000	80,000
未払法人税等	9,652	265,429
賞与引当金	194,871	272,094
受注損失引当金	9,242	2,027
その他	698,788	818,518
流動負債合計	1,523,769	2,065,066
固定負債		
その他	839,186	695,520
固定負債合計	839,186	695,520
負債合計	2,362,956	2,760,587
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,966,900	1,966,900
資本剰余金	2,453,650	2,453,650
利益剰余金	3,001,052	3,157,303
自己株式	8,513	8,477
株主資本合計	7,413,089	7,569,376
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,235	6,657
評価・換算差額等合計	5,235	6,657
少数株主持分	48,407	49,195
純資産合計	7,456,261	7,625,229
負債純資産合計	9,819,218	10,385,816

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	6,408,713	6,476,359
売上原価	4,857,824	5,208,600
売上総利益	1,550,888	1,267,758
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	659,589	629,498
賞与引当金繰入額	103,033	60,888
その他	780,369	737,973
販売費及び一般管理費合計	1,542,992	1,428,360
営業利益又は営業損失( )	7,896	160,602
営業外収益		
受取利息	20,048	14,169
受取配当金	21,038	7,667
受取賃貸料	153,872	147,950
その他	20,639	19,366
営業外収益合計	215,598	189,154
営業外費用		
支払利息	785	685
有価証券売却損	205	-
賃貸収入原価	140,260	141,302
その他	1,339	11,280
営業外費用合計	142,591	153,268
経常利益又は経常損失( )	80,903	124,716
特別利益		
固定資産売却益	32	81
賞与引当金戻入額	98,074	-
その他	-	0
特別利益合計	98,106	81
特別損失		
固定資産売却損	121	521
固定資産除却損	3,484	855
投資有価証券売却損	6,020	-
投資有価証券評価損	2,725	17,727
過年度損益修正損	-	7,652
特別損失合計	12,352	26,756
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	166,657	151,391
法人税等	73,592	67,381
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	-	84,009
少数株主利益	4,238	2,259
四半期純利益又は四半期純損失( )	88,826	86,269



## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	1 1,938,749	1 1,825,236
売上原価	1 1,473,050	1 1,474,605
売上総利益	465,699	350,631
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	219,729	207,117
賞与引当金繰入額	40,138	40,044
その他	268,008	231,078
販売費及び一般管理費合計	1 527,877	1 478,239
営業利益又は営業損失( )	62,178	127,608
営業外収益		
受取利息	6,090	3,712
受取配当金	15,304	1,438
受取賃貸料	48,029	49,818
その他	5,956	5,896
営業外収益合計	75,380	60,866
営業外費用		
支払利息	286	234
有価証券売却損	205	-
賃貸収入原価	43,499	47,403
その他	356	4,024
営業外費用合計	44,347	51,662
経常利益又は経常損失( )	31,144	118,404
特別利益		
固定資産売却益	-	9
特別利益合計	-	9
特別損失		
固定資産売却損	121	9
固定資産除却損	637	127
投資有価証券売却損	6,020	-
特別損失合計	6,779	136
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	37,924	118,531
法人税等	14,757	54,346
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	-	64,184
少数株主利益	3,912	340
四半期純利益又は四半期純損失( )	27,079	64,525

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	166,657	151,391
減価償却費	94,591	98,548
無形固定資産償却費	48,082	54,921
前払年金費用の増減額( は増加)	88,487	68,235
賞与引当金の増減額( は減少)	136,896	77,222
受注損失引当金の増減額( は減少)	4,106	7,214
貸倒引当金の増減額( は減少)	46	275
受取利息及び受取配当金	41,087	21,836
有価証券売却損益( は益)	205	-
投資有価証券売却損益( は益)	6,020	-
投資有価証券評価損益( は益)	2,725	17,727
支払利息	785	685
為替差損益( は益)	507	76
固定資産売却損益( は益)	89	439
固定資産除却損	3,484	855
売上債権の増減額( は増加)	1,119,906	759,089
たな卸資産の増減額( は増加)	587,027	442,783
その他の流動資産の増減額( は増加)	172,437	311,320
仕入債務の増減額( は減少)	19,905	472,105
未払費用の増減額( は減少)	13,364	9,112
その他の流動負債の増減額( は減少)	138,785	162,009
その他の固定負債の増減額( は減少)	72,431	151,740
その他	90	-
小計	816,097	164,659
利息及び配当金の受取額	41,235	25,348
利息の支払額	866	753
法人税等の支払額	33,661	285,333
営業活動によるキャッシュ・フロー	822,804	425,398
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	180,000	180,000
定期預金の払戻による収入	247,000	180,000
有価証券の取得による支出	100,000	16,007
有価証券の売却による収入	304,509	300,000
投資有価証券の取得による支出	273,370	108
投資有価証券の売却による収入	10,000	-
関係会社株式の取得による支出	73,577	-
投資その他の資産の増減額( は増加)	554	15,411
有形固定資産の取得による支出	46,547	91,065
無形固定資産の取得による支出	1,418,310	1,032,791
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,530,851	824,560

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	124,000	120,000
自己株式の取得による支出	-	36
配当金の支払額	41,988	69,980
少数株主への配当金の支払額	6,900	3,048
財務活動によるキャッシュ・フロー	75,111	46,935
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	632,935	1,203,024
現金及び現金同等物の期首残高	2,092,183	1,813,790
現金及び現金同等物の四半期末残高	<sup>1</sup> 1,459,248	<sup>1</sup> 610,766

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
1 会計処理基準に関する事項の変更	(1) 資産除去債務に関する会計基準の適用 第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。 なお、この変更に伴う損益に与える影響はありません。 (2) 連結財務諸表に関する会計基準等の適用 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)を適用しております。

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )」の科目で表示しております。

	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書関係)	「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )」の科目で表示しております。

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
1 棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末の棚卸高に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
2 固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
1 税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。 なお、「法人税等調整額」は、「法人税等」に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。 なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれておりません。 受取手形 368千円	1
2 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。 仕掛品 833,115千円 原材料及び貯蔵品 6,994千円	2 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。 仕掛品 387,863千円 原材料及び貯蔵品 9,463千円
3 有形固定資産の減価償却累計額 3,113,083千円	3 有形固定資産の減価償却累計額 2,918,294千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日)
1 当社グループの売上高は第2四半期及び第4四半期に集中する傾向にあります。当第3四半期連結会計期間の売上高及び営業費用は第2四半期連結会計期間と比較して減少しております。	1 同左

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成21年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日 )
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 518,187千円	現金及び預金 789,816千円
有価証券 600,475千円	有価証券 266,604千円
関係会社短期貸付金 1,020,111千円	計 1,056,421千円
計 2,138,774千円	預入期間が 3 ヶ月超の定期預金 180,000千円
預入期間が 3 ヶ月超の定期預金 180,000千円	預入期間が 3 ヶ月超の有価証券 265,654千円
預入期間が 3 ヶ月超の有価証券 499,525千円	現金及び現金同等物 610,766千円
現金及び現金同等物 1,459,248千円	

( 株主資本等関係 )

当第 3 四半期連結会計期間末 ( 平成22年12月31日 ) 及び当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年12月31日 )

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第 3 四半期連結会計期間末
普通株式 ( 株 )	3,510,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第 3 四半期連結会計期間末
普通株式 ( 株 )	11,035

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 ( 千円 )	1 株当たり配 当額 ( 円 )	基準日	効力発生日
平成22年 5 月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	69,980	20	平成22年 3 月31日	平成22年 6 月25日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

4 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

当社及び連結子会社の事業は、情報処理関連事業の単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

本邦以外の国及び地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日至平成22年12月31日)

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、市場を公共と民間に区分し、市場別に成長の方向性を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は「公共事業」、「民間事業」の2つを報告セグメントとしております。

「公共事業」は、地方自治体向けに住民情報、内部情報、戸籍情報等のパッケージシステム、自治体業務の受託サービス、水道料金計算、学校・図書館向けのソリューションサービス等の公共市場をターゲットとした事業を展開しております。

「民間事業」は、ガス・エネルギー、流通、製造、医療の民間市場をターゲットとしたソリューションサービス等の事業を展開しております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	公共事業	民間事業			
売上高					
外部顧客への売上高	3,499,507	2,976,851	6,476,359	-	6,476,359
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,138	1,138	-	-	-
計	3,498,368	2,977,990	6,476,359	-	6,476,359
セグメント利益	462,176	130,146	592,322	752,924	160,602

(注)1 セグメント利益の調整額 752,924千円には、各報告セグメントに配分していない製造補助部門費 136,410千円及び全社費用 616,514千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	公共事業	民間事業			
売上高					
外部顧客への売上高	917,397	907,838	1,825,236	-	1,825,236
セグメント間の内部売上高又は振替高	950	950	-	-	-
計	916,447	908,788	1,825,236	-	1,825,236
セグメント利益	71,864	32,318	104,183	231,791	127,608

(注)1 セグメント利益の調整額 231,791千円には、各報告セグメントに配分していない製造補助部門費 40,327千円及び全社費用 191,463千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）

満期保有目的債券で時価のあるもの及びその他有価証券で時価のあるものにつきましては、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日）

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）

当社グループは、不動産賃貸契約に基づき、契約終了時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期限が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、債務の履行時期を予測することが難しく、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(賃貸等不動産関係)

当第3四半期連結会計期間末（平成22年12月31日）

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。



( 1 株当たり情報 )

1 1 株当たり純資産額

当第 3 四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年 3 月31日)
2,117.16円	2,165.17円

(注) 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第 3 四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年 3 月31日)
純資産の部の合計額 (千円)	7,456,261	7,625,229
普通株式に係る純資産額 (千円)	7,407,854	7,576,033
差額の主な内訳 (千円)		
少数株主持分	48,407	49,195
普通株式の発行済株式数 (千株)	3,510	3,510
普通株式の自己株式数 (千株)	11	10
1 株当たり純資産額の算定に用いられた四半期末 (期末) の普通株式の数 (千株)	3,498	3,499

2 1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自平成21年 4 月 1 日 至平成21年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自平成22年 4 月 1 日 至平成22年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( ) (円)	25.39	24.66
潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額 (円)		

(注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1 株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自平成21年 4 月 1 日 至平成21年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自平成22年 4 月 1 日 至平成22年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 ( ) (千円)	88,826	86,269
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失 ( ) (千円)	88,826	86,269
普通株式の期中平均株式数 (千株)	3,499	3,498

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )(円)	7.74	18.44
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)		

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。  
2 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	27,079	64,525
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失 ( )(千円)	27,079	64,525
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,499	3,498

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

(リース取引関係)  
当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)  
リース取引残高は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月5日

株式会社両毛システムズ  
取締役会 御中

新宿監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田 中 信 行 ⑩

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 橋 本 実 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社両毛システムズの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社両毛システムズ及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月7日

株式会社両毛システムズ  
取締役会 御中

新宿監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田 中 信 行 ⑩

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 橋 本 喜 一 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社両毛システムズの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社両毛システムズ及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。